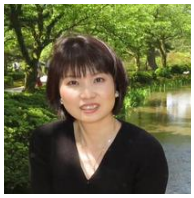
国際理解セミナー
「ベトナム再発見！！文化と暮らしのストーリー」

2 月 15 日（日）、ベトナムをテーマとした国際理解セミナーを開催しました。近年、人口増加とともに存在感を高めるベトナムの現状を知り、より身近に感じていただくことを目的としたものです。



講師には、来日 23 年、2020 年に日本へ帰化された金子 煌（ハン）さんをお招きしました。現在は通訳として活躍されており、「これまで日本の皆さんにお世話になった恩返しとして挑戦したい」との思いから、今回初めて講師を務められました。

緊張しながらも意欲的に臨まれ、さまざまなテーマについてお話しいただきました。

＜現代のベトナム＞

空の玄関口や交通事情、物価について紹介がありました。日立製作所が手がけたメトロの導入により利便性は大きく向上し、タクシーは緑がガソリン車、水色が電気自動車と区別されています。バイクタクシーも一般的で、政府の方針により電動化が進んでいます。物価は日本に比べて安く、ベトナムのスターバックスでは支払いがクレジットカードと専用カードに限定されるなど、キャッシュレス化も進んでいます。通勤ラッシュ時には道路がバイクで埋め尽くされる一方、大きな混乱（事故）が少ないというエピソードに、会場は笑いに包まれました。

＜日本との親密な関係＞

日本の ODA で建設されたカントー橋は、交通と物流を大きく改善し、フェリーで約 3 時間かかっていた移動を約 15 分に短縮しました。これにより農水産物の流通も効率化されています。

また、IT 分野では、ベトナム企業が日本市場に注目し、日本向けの人材育成を進めたうえで進出しており、アウトソーシングを中心に存在感を高めています。さらに、製造業や飲食・サービス業など幅広い分野でも、日本の中小企業が 450 社以上進出しており、多くが成功を収めています。

＜食文化と地域ごとの特色＞

蓮茶、フォー、バインミー、揚げ春巻きなどの代表的な料理や、フランスパン文化の背景について紹介がありました。コーヒー豆の生産量はブラジルを抜いて世界トップ、コショウは輸出量・生産量ともに世界トップを維持しており、ビール消費量もドイツに次いで 2 位、米の輸出量もインドに次いで 2 位、カシューナッツの生産量も世界一を誇るなど、食に関する話題も豊富でした。

＜伝統工芸と地域産業＞

旧正月テトで使われるクアンナム省のお線香は色鮮やかで種類も豊富です。また、アオザイやシルク、刺繍といった伝統文化についても紹介されました。

＜家族観・結婚観などの生活文化＞

ベトナムではイベントごとに家族・親戚中が集まり、テトでは一年を振り返りながら語り合うことで、心のつながりを深める文化があります。家族愛が強く、高齢者を大切にする価値観や、海外在住者が家族へ送金する習慣についても触れられました。そして、女性が大変な働き者だということでした。

＜教育制度と子どもたちの暮らし＞

ベトナムの義務教育は今年から、幼稚園年長＋小学校の 5 年間＋中学校の 4 年間の計 10 年間で、新学期は 10 月に始まります。近年は経済格差を減らすために教育費の負担軽減も進み、高校（私立含む）や幼児教育の無償化が導入されています。女子生徒は白いアオザイを制服とし、面白かったのは、始業・終業は校庭にある太鼓を先生が叩いて合図されるなど独自の文化も見られます。

また、午後には昼寝の時間が設けられている点も特徴的でした。これは、会社員も同じだそうです。

最後に、番外編として現地で訪れてほしい観光地の紹介もあり、参加者は興味深く耳を傾けていました。内容は非常に充実しており、質疑応答も活発に行われました。終了後には講師と個別に話をされる方も多く、名残を惜しむ様子が印象的でした。